

錦川流域ネット交流会

錦川流域の自然と文化の保全・再生活動



錦川源流の碑の建立



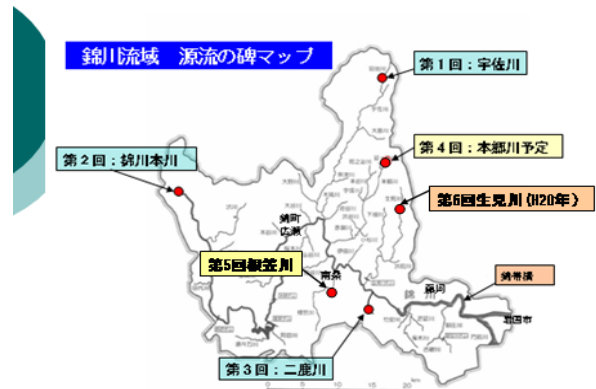
子供達による錦帯橋の古材運搬

団体の名称、所在地等

団体名 錦川流域ネット交流会
所在地 岩国市錦町広瀬823番地の2
設立時期 平成14年11月
会員数等 32,000人(38団体)



錦川流域ネット交流会



会の設立趣旨・目的等

「錦川流域ネット交流会」は、平成14年に錦川流域で活動する環境団体など32団体により結成され、錦川や錦川流域をフィールドとして活動を行い、お互いの情報を交換し、錦川にかかわる情報発信や実践活動を進めることにより、上・中・下流の交流・連携を促進することを目的としています。



支川本谷川に源流の碑を建立



寂地峡での錦川カエルフォーラム

第9回やまぐち県民活動パワーアップ賞受賞団体

活動の状況

主な活動として、錦帯橋の古材を利用した「錦川源流の碑の建立」、「錦川生きものフォーラム」など、錦川流域の自然と文化の保全・再生と、流域全体を見据えた視野で各種交流活動を行っています。

錦川源流の碑の建立

本会の中心的活動であり、平成15年から継続事業として錦川流域の各支流に源流の碑を建立。

錦帯橋の古材を子供たちとリヤカーなどで運搬し、感謝の気持ちを込めて森に歸し、環境保全のシンボルとして新たな息吹を注ぎ込んでいます。



錦川の支流に源流の碑を運搬

錦川生きものフォーラム

錦川流域に棲む絶滅が危惧されているカジカガエル・オオサンショウウオ・ニホンユビナガコウモリなどの動物の保護を目的として、フォーラムを定期的で開催しています。



地底王国ムーバレーでのフォーラム



南桑地区でカジカガエルを探す

錦川流域一斉清掃

錦川流域の各地の団体が定期的に河川清掃を行っていますが、7月20日前後の日曜日には行政と協働して錦川一斉清掃を行っています。参加者も年々増え、今年は4000人近い参加者の協力をいただきました。



第9回やまぐち県民活動パワーアップ賞受賞団体

活動の状況

他流域の河川愛護団体と交流

川でつなぐ8県交流会に参加し、特に福島県・新潟県等の7県の河川愛護団体とは継続的に交流を続けています。

また、韓国で開催された韓日河川環境団体交流会にも参加し、釜山の河川愛護団体とも交流を持つことができました。



新潟県での8県交流会



韓国釜山市での韓日河川環境団体交流会

錦川ブランドの確立

宇佐川のアユが日本一

交流会では、錦川ブランドの確立にも力を入れており、「第8回清流めぐり利き鮎会」において、錦川水系宇佐川産のアユが、全国45河川のアユの中でグランプリに選ばれました。

右は第9回準グランプリ獲得証明書



朝刊ヘッドライン

2005年09月25日

1位は宇佐川(山口) 高知市で利き鮎大会

全国の河川で捕れた天然アユを食べ比べる「第8回清流めぐり利き鮎(あゆ)会」が24日、高知市上町2丁目の城西館で開かれた。県内13河川をはじめ、青森から宮崎県まで全国24県、計45河川から3000匹が集まり、ファン約280人が存分に味わった。今年は山口県の宇佐川が初のグランプリに選ばれた。

県友釣連盟(内山昭一理事長)が美しい河川を残そうと開いている。昨年は漁獲量減少のため不参加だった四万十川も復活。河川によって大きさの違うアユが、適度な塩加減でこんがり香ばしく焼かれ、血いっぱいにずらりと並んだ。

内山理事長が「昨年はアユが集まらずどうなるかと思ったが、今年は最高のアユが集まった」とあいさつ。審査が始まると、各テーブルで「これが一番おいしいぞ」「味と香りがたまらない」と次から次へばかりばかり、ビールや日本酒を片手に、各河川自慢のアユの味を堪能した。

利き鮎会に先だって、県友釣連盟の発足10周年を記念したシンポジウムも開催。県内外の漁協関係者らが河川環境などについて議論を深めた。

グランプリの宇佐川は岩国市の瀬戸内海に注ぐ錦川水系の支流。

準グランプリは、鏡川、伊尾木川(以上本県)、瀬部川(徳島)、桧木内川(秋田)、鬼怒川(栃木)、相模川(神奈川県)、長良川(岐阜)の7河川。

【写真説明】全国の天然アユを食べ比べるアユファンら(高知市の城西館)

2005年09月25日の朝刊ヘッドライン

- 四万十支流で小1水死 台風後の深みにはまる?
- ボンバル機また異常 警告灯点灯で欠航
- Jリーグ 徳島快勝に大歓声 春野陸上競技場
- 1位は宇佐川(山口) 高知市で利き鮎大会
- 全盲の北田さん公演 ピアノ演奏や声楽 高知市
- 宿毛市で動物愛護のつどい 体験乗馬など人気
- 「力の平和あり得ない」高知市で県革新懇記念講演

一週間のバックナンバー

18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日



今後の活動の展望

これからも日本一きれいな川・日本のふるさとの川を目指し、錦川流域が一つになって様々な活動を展開し、環境保全、文化再生に努めていきます。